'91ハワイーメキシコ日食報告会開催される

編集部

1991年9月29日（日）に、'91年7月ハワイーメキシコ日食の報告会が、東京新宿の工学院大学で、200名を越える参加者のもと、盛大に開催された。今回の日食は、多数の人々が多数の地域で観測をされたため演題数が多くなり、すべての場所での観測結果を網羅して発表していただくことができず、また１演題当たりの発表時間が短くなってしまったのも、心苦しい限りである。

【ハワイ編】

初めに、山口正博先生から今回の日食の全体の概況およびハワイでの概況が紹介され、以下、原則として日食見られた時間順に各地域での状況の報告がなされた。

まず、榊原幸雄さんから東京理科大学マウナロア隊の観測報告が示された。おもに広角で日食を捕らえることに努力したそうである。極限等級の観測では、最高オリオン座のＭ４２まで写っていたというから驚きである。次いで、角本繁さんからは、コナ・サーフでの観測が報告された。地形や気象を考えに入れた場所選びの苦労話に力が入れられた。ハワイ島は、多くの日本人が観測したワイコロアはあいにく曇りであったが、コナ・サーフなど一部の地域では若干雲があったものの皆既食は観測できたそうである。

【メキシコ編】

大越治さんからメキシコでの概況が報告された。メキシコでは、大部分の地域で天候に恵まれ、一部薄雲があったところもあったが、大きな影響もなく観測できたそうである。洞澤繁さんからは、全天ビデオという演題で、すばらしいプロミネンスの映像が紹介された。１１台のビデオで様々な方法で撮影を試みられたそうである。森友和さんからは、デルカボでの状況が紹介された。日食観測もさることながら、現地での市長を含む歓迎ぶりなども紹介された。岡田秀一さんからは、天文ガイド隊によるリベラでの状況が紹介された。東京理科大学メキシコ隊からはラパスでの観測結果の報告があった。まず、池田圭さんから、シャドーバンドのビデオが紹介され、特に第３接触後のものは非常によく映っていた。次いで、大越治、鳫宏道、神保徹各氏による画像処理による偏光コロナの発表があった。偏光方向を連続して変化させビデオ撮影したもので、偏光による見え方の変化がよく解った。今後の詳細な解析が待たれる。西山峰雄さんからは、ソチカルコでの報告がなされた。あいにく雲が有り、コロナは見えたものの、目的としていたクロイツ群の彗星は残念ながらだめであったとのこと。

【その他】

その後、木村精二先生から、日食旅行についてお話しがあった。日食旅行がブームでツアーが乱立したり、旅行社優位の条件が設定されたりするので、今後の旅行もよく考えて計画を立てたほうがよいというアドバイスをいただいた。また、藤森賢一さん、関舜衛さんから、それぞれ今回の自主旅行の思い出、1968年ソビエト日食で皆既帯に入ることができなかった頃と現在の日食事情との違いについての話しがあった。

最後に、秦茂先生から、極大期コロナと題し、太陽コロナの最近の理論の講義があり、今回のコロナもこの理論で説明できるという。俗にモヒカン刈りと題された今回のコロナであったが、理論が完全に証明されるのはもう少し先になりそうだ、とのことである。

全体として以前の日食報告と異なるのは、ビデオによる観測が格段に増え、画質も向上していることである。ハイテクの波が観測に色を添えている感がある。一方で、新しい会場のハイテク設備に不慣れなスタッフの不手際が目立ったことをこの場を借りてお詫びさせていただく。